

令和 7 年 7 月 30 日 (水)

令和 7 年度第 2 回「横浜市地域公共交通会議」

次 第

議題

- ・青葉区東部地区（新石川地区・美しが丘地区・あざみ野地区）における
新たな公共交通サービス実証実験（あおば GO！）について

報告

- ・旭区今宿地区の実証運行における代替車両の利用について
- ・敬老パス等の適用対象交通機関の拡大について

令和7年度第2回「横浜市地域公共交通会議」委員名簿

職 名	氏 名
公募市民	小田部 明人
学識経験者 東京大学大学院 特任教授	中村 文彦
一般乗合旅客自動車運送事業者 (一般社団法人神奈川県バス協会 乗合部会長)	鬼頭 恒寛
一般乗用旅客自動車運送事業者 (神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長)	大野 慶太
一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事	関上 義明
神奈川県タクシー協会横浜支部 事務局長	白砂 照彦
神奈川県 交通運輸産業労働組合協議会 副議長	梅谷 英昭
国土交通省 関東運輸局 交通政策部 交通企画課長	市野 将英
国土交通省 関東運輸局 神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	森下 文章
神奈川県 県土整備局 都市部 交通政策課長	最上 祐紀
(座長) 横浜市都市整備局交通政策部 地域交通推進担当部長	石井 高幸

令和7年度第2回「横浜市地域公共交通会議」	
日 時	令和7年7月30日（水） 10時00分から11時10分まで
場 所	横浜市役所 18階みなと1・2・3会議室
開催形態	公開（傍聴：5名）
議 題	議題1_青葉区東部地区（新石川地区・美しが丘地区・あざみ野地区）における新たな公共交通サービス実証実験（あおばGO!）について 報告1_旭区今宿地区の実証運行における代替車両の利用について 報告2_敬老パス等の適用対象交通機関の拡大について
議 事	（※本議事概要内では敬称略） 【議題1】青葉区東部地区（新石川地区・美しが丘地区・あざみ野地区）における新たな公共交通サービス実証実験（あおばGO!）について ■東京大学大学院 特任教授 ご意見 ・資料P.19～21の「順位」はどのような意味か教えてほしい。 ◇事業者（NTTドコモビジネス株式会社） 回答 ・利用回数の上位30を示している。 ■東京大学大学院 特任教授 ご意見 ・一人当たり利用回数はどのように算出するのか教えてほしい。 ◇事業者（NTTドコモビジネス株式会社） 回答 ・事前取得している利用者IDと利用回数から算出している。 ■東京大学大学院 特任教授 ご意見 ・仮に一人が100回利用すると、一人当たり利用回数は100になるということか。 ◇事業者（NTTドコモビジネス株式会社） 回答 ・そのとおり。 ■東京大学大学院 特任教授 ご意見 ・今年度の実証運行では一人当たり利用回数は多い方が良いのか、少ない方が良いのか。持続可能なものにするため利用者は問わず運賃収入を稼ぐことが必要という考え方もある。たとえば高齢者の方々に慣れてもらうためにまずは利用していただき経験者を増やしていくという考え方もある。どのような考えのもと分析を進めていくのか教えてほしい。 ◇事業者（NTTドコモビジネス株式会社） 回答 ・昨年度は利用されているユニークユーザー数が約600名だった。まずは多くの方々に認知・利用していただくことを大事にしたい。一方で、今年度は収支の観点もより重要性を増しているため、少しでも多くの方々にリピートしていただき一人当たり利用回数が増えることも大事にしたい。分析の観点としては、双方取れる形により相関関係でどの施策がどのように影響しているかなど分析していきたい。現時点では具体的な情報の取り方は整理しきれていないため、ご指摘の点は実証運行開始までに整理して進めていき

たい。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・青葉区は順応性の高い方々が多いと思うため、体験者を増やすという点では丁寧に分析をしていただき、結果として収益が十分でなくとも地域での認知とポジティブな評価を増やしていくという財産づくりをより重視していただきたい。

■公募市民 ご意見

- ・資料 P.11 の平均乗車人数の推移について、5 年度は順調に伸びていたが 6 年度はほぼ横ばいとなっている。運賃を 300 円から 400 円に値上げしたことが要因の 1 つだと思うが、利用者数が伸びなかった理由についてどのように分析しているか教えてほしい。
- ・その中で 7 年度は 500 円とさらに値上げすることについて、利用者の立場として運賃は非常に気になるため、どのような経緯で運賃設定をしたのか教えてほしい。
- ・敬老パスの割引を適用する点については周知が大事だと思うが、具体的な周知方法も教えてほしい。自治会経由での周知はなかなか進まないこともあるため、行政から敬老パス所有者に対して直接周知することも考えられる。

◇事業者（NTTドコモビジネス株式会社） 回答

- ・1 点目について、まず 5 年度は 11 月頃から利用者数が伸び始めて 12 月にさらに伸びているが、これは 12 月から平日に加えて土日も運行する形としており、事前の案内を進めていた時期となる。それが主たる要因とまでは分析しきれていないが、土日も利用できることになった点が伸びた理由であると考えている。一方、6 年度に伸びなかった理由については、月 1 回利用の方が比較的多くファンを増やせなかったところが大きいと考えている。運営側の課題としては、利用者のターゲティングをきちんとして、成功体験として生活と絡めたところの提案がしきれなかった。7 年度はユニークユーザーを増やすとともに高齢者と子育て世代にターゲットを設定しプロモーションしていく。また地域ケアプラザにも参画いただき対話を重ねてあおば GO! のファン・リピーターを作っていくというところで利用者数を伸ばしていきたい。
- ・2 点目について、収支改善の観点から悩んだ結果として大人 100 円値上げとした。ご指摘のとおり値上げによる利用者数の減少は考えられるが、複数名乗車を活性化させて 2 名以降は割引とすることでお得に乗車いただけるよう運賃設定した。また、エリアを跨ぐ場合の運賃を昨年度から据え置きとすることで積極的に利用いただけるような場面を増やしていく。値上げと合わせてお得にご利用いただけるシーンも増やしていく。また敬老パスにより高齢者は半額で利用できるシーンも追加している。その点も踏まえ、全体的にはお得に利用できる場面を増やしながらか活用いただきたい。
- ・3 点目について、協議会として地域ケアプラザや自治会との対話を通じて対象者へリーチできる場面の中で積極的にご案内していきたい。どうすれば有効に届くかという知見を対話により伺いながらそれを生かした取組を進めていきたい。地域ケアプラザとは個別に対話しており、地域ケアプラザ内のイベントに参加させていただき周知したり、地域ケアプラザ発信の情報にあおば GO! の情報を入れていただくなど、対象の方へ届くようにご案内していきたい。

■公募市民 ご意見

- ・ぜひ周知を徹底していただきたい。
- ・資料 P.27 の協議会について、行政が関われないという点を詳しく説明してほしい。

◇事務局 回答

- ・今年度から新制度「横浜市みんなのおでかけ交通事業」によりデマンド型運行を支援対象に追加しており、協議会に対して市が補助金交付を行うため市が協議会に加入することはできないが、連合自治会やケアプラザなど地域との連絡調整等の支援を行っている。

■公募市民 ご意見

- ・その点を資料に補記いただくと分かりやすい。

◇事務局 回答

- ・市と協議会の関係性が分かるよう資料に補記する。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 事務局長 ご意見

- ・資料 P.14 の「横浜市支援制度の実証運行 3 年目の条件」について、今年度から「横浜市みんなのおでかけ交通事業」活用するということは今年度の収支率の目標は実証運行 1 年目の 25%ということになるのか。

◇事務局 回答

- ・「横浜市みんなのおでかけ交通事業」の活用は今年度からだが、あおばGO! は過年度から実証運行を行っており今年度が実質的に 3 年目となるため、本事業に係る補助金要綱等の考え方に則り事業者と協議し実証運行 3 年目と位置付けている。そのため、今年度が実証運行の最終年度として、収支率も実証運行 3 年目の 50%を目指していく。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 事務局長 ご意見

- ・そうすると、2 年連続で運行継続条件未達の場合は運行中止し再検討とあるが、今年度は 50%未達だと運行中止し再検討となるのか。

◇事務局 回答

- ・制度上は国の補助金も収入に計上可能であり、実証運行ではそれに頼って収支率達成できているところもあるが、本格運行時は国の補助金を活用できる見込みが現時点でないため、その点も踏まえ本格運行については慎重に見極めていきたい。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 事務局長 ご意見

- ・地域の重要な足になると思うが、収支率達成しないと事業として成り立たないと思うため、その点について検討をお願いしたい。

【報告 1】旭区今宿地区の実証運行における代替車両の利用について

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・他に調達可能なワゴン型車両はなかったのか教えてほしい。

◇事業者（日本交通横浜株式会社） 回答

- ・車両の規格や運用等も含め、様々検討したが、具体的なものは見つかっていない状況。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・説明にあった「乗りこぼし」という表現は一般的に使われているのか教えてほしい。市

民が見る資料ということを意識して分かりやすい表現としてほしい。

◇事務局 回答

- ・確認する。

(確認のうえ、市民に分かりやすい表現となるよう「乗客が乗り切れない」に修正)

【報告2】敬老パス等の適用対象交通機関の拡大について

■一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事 ご意見

- ・敬老パスで運賃半額となり、半額となった分は市の負担になると思うがそれは運行経費に計上されるのか。計上されると敬老パスによる利用者が増えても収支率の改善にはならないと思う。

◇事務局 回答

- ・利用者と市が半額ずつ負担するという形になるが、収支率の計算では市の負担分についても収入として計算する。

■公募市民 ご意見

- ・敬老パスは地下鉄や路線バスでは専用の読み取り機が設置されているが、今回の適用地区でも設置されるのか、設置される場合は費用についても教えてほしい。

◇横浜市健康福祉局高齢健康福祉課 回答

- ・今回の適用地区でも運行事業者と調整のうえ読み取り機を設置する。設置や故障等の修理事業の費用は健康福祉局で負担する。

■公募市民 ご意見

- ・敬老パスの適用拡大にあたっては周知が大事だと思う。今回の説明は健康福祉局だが、健康福祉局と都市整備局で連携して周知しないとなかなか進まないと思うがどのように考えているか教えてほしい。

◇横浜市健康福祉局高齢健康福祉課 回答

- ・両局連携のうえ、運行エリアの方々にはしっかり周知していきたいと考えているため、周知方法など地域とも相談して進めている。

◇事務局 回答

- ・市としてしっかり利用者に伝わりやすい周知方法を考えていくため、引き続き両局連携して進めていきたい。